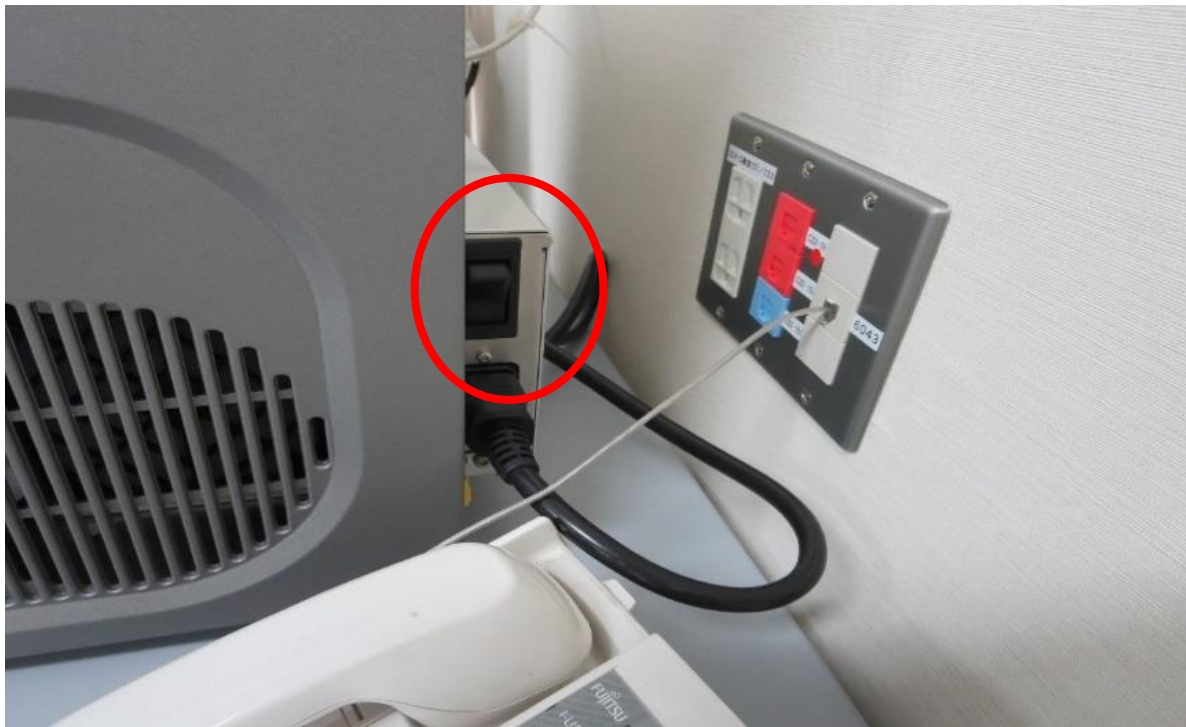


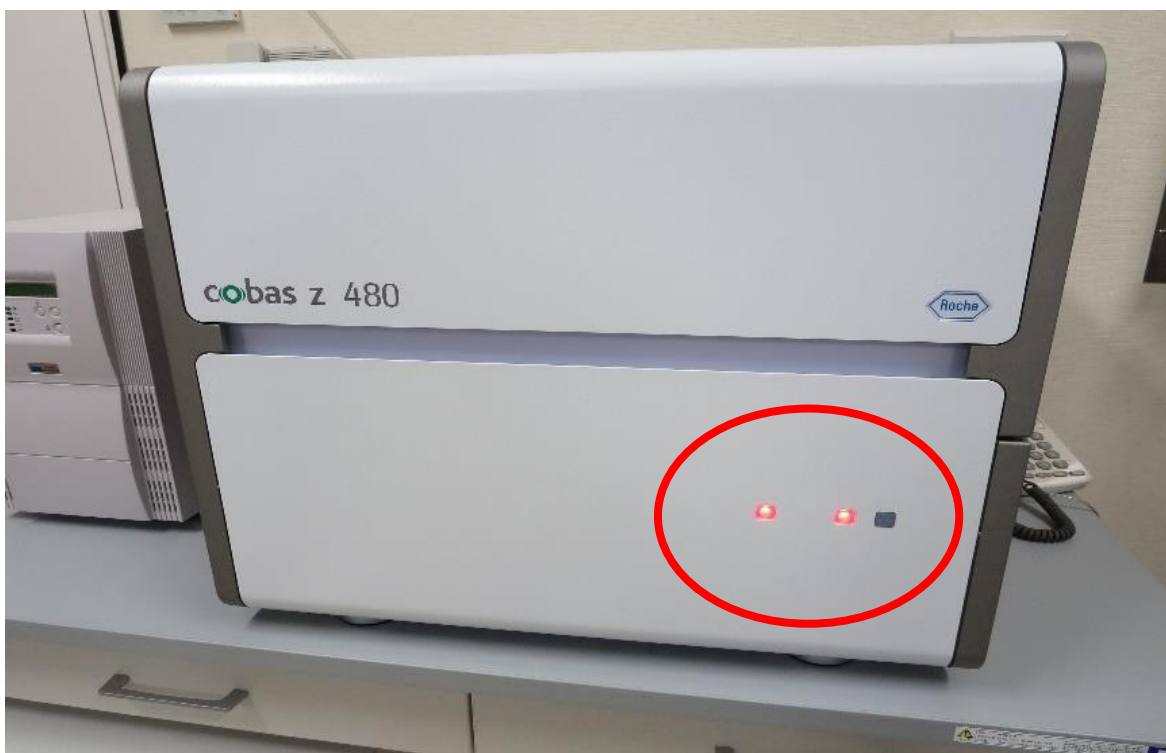
LightCycler 480/コバス z480 研究用アプリケーション 使用手順

測定 (Run)

1. 本体後ろにある電源スイッチを ON にする。



(注) 赤ランプ(2 個)点灯中は装置に触れない(装置初期化中)。



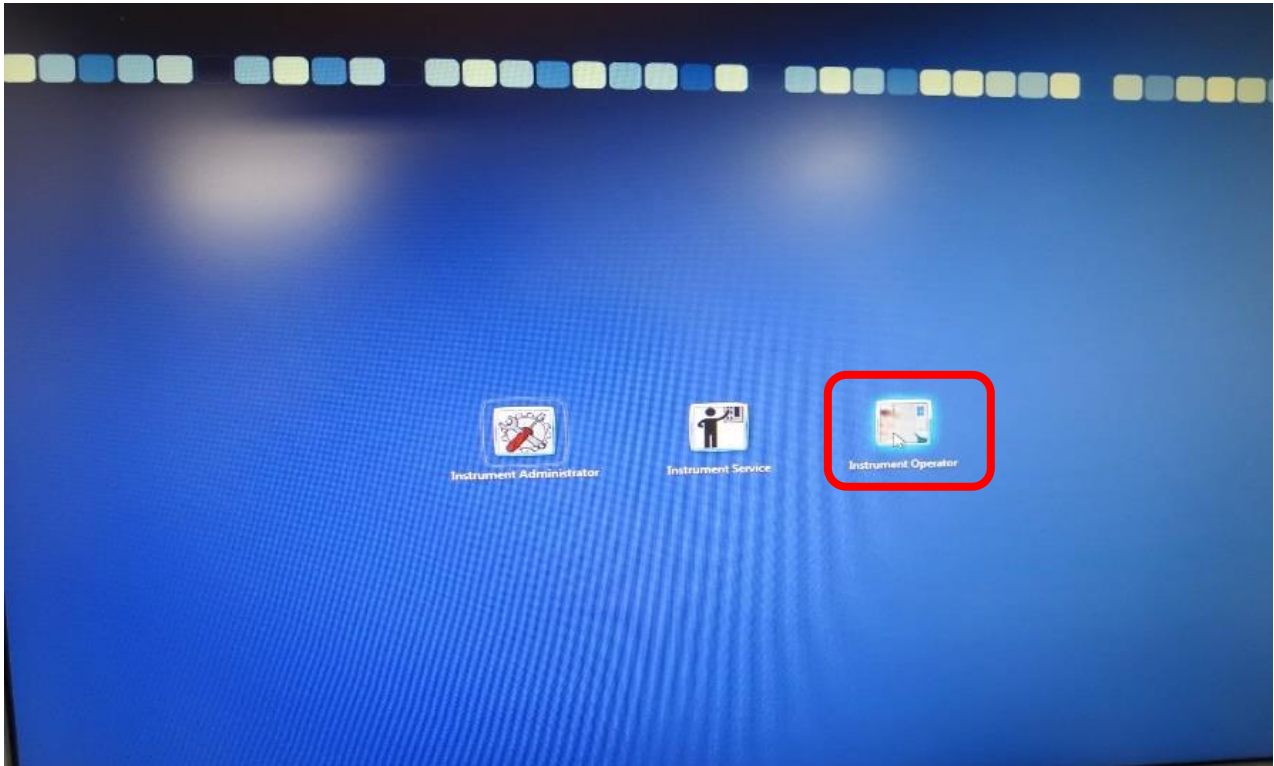
2. PC を起動する。



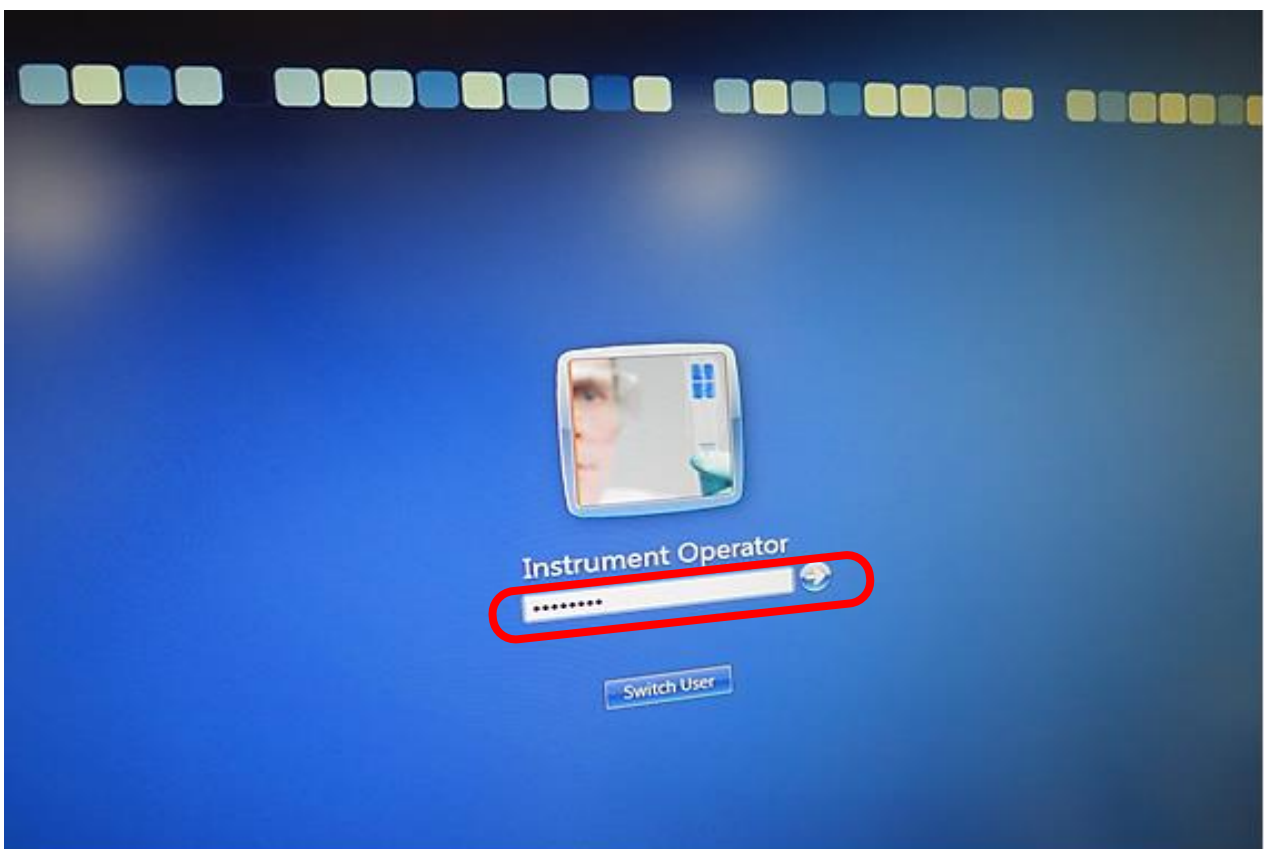
3. (コバスのみ) PC のスイッチを入れ、PC が立ち上がったらずぐに下矢印のカーソルを押して、Enter。そのままと別のプログラムがたちあがり、Light Cycler のプログラムがデスクトップ上にあらわれない。その時は再起動する



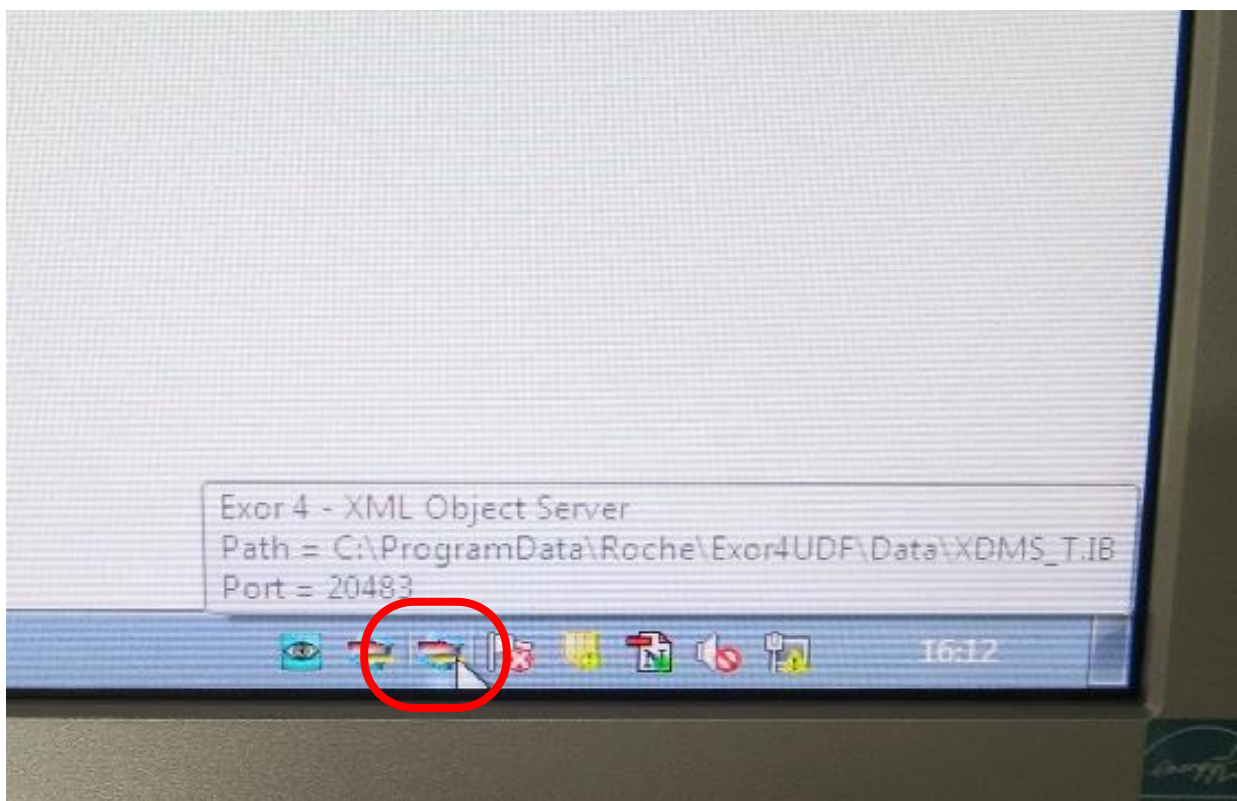
4. (コバスのみ)右端の Instrument Operator クリック



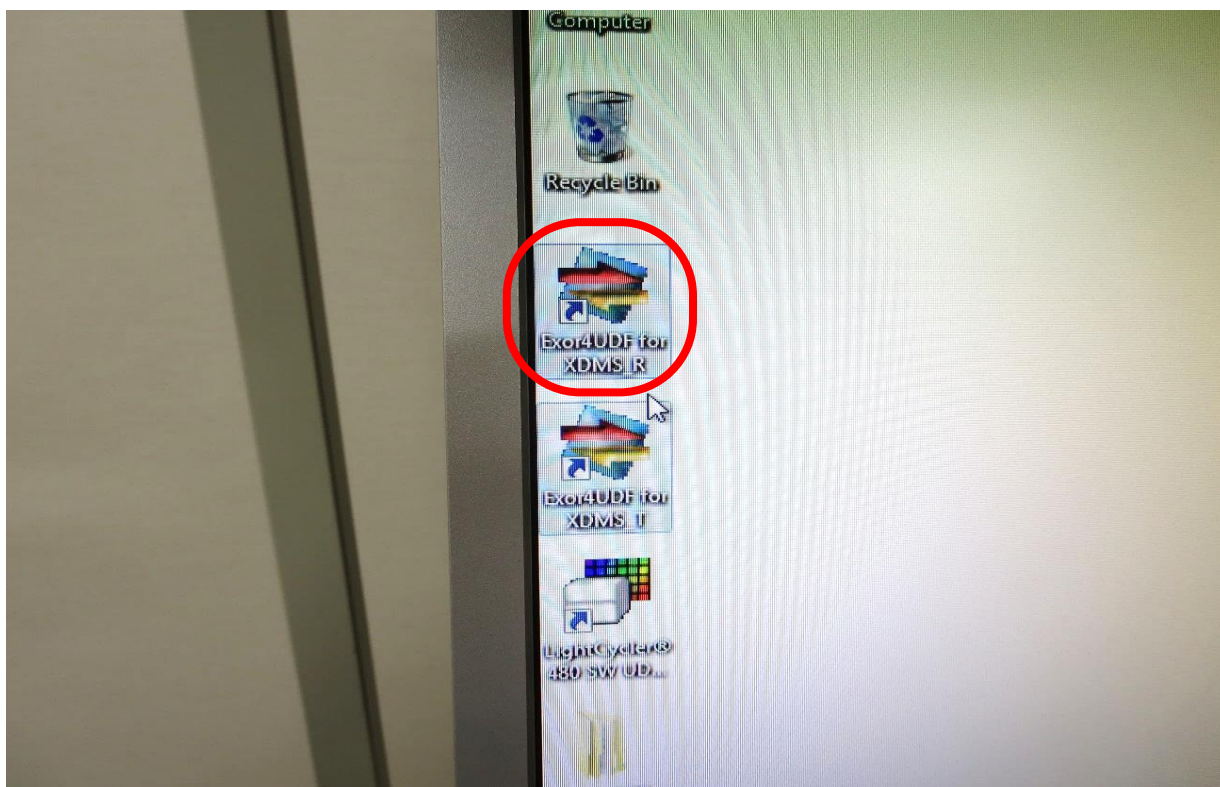
5. (コバスのみ)パスワードを入力



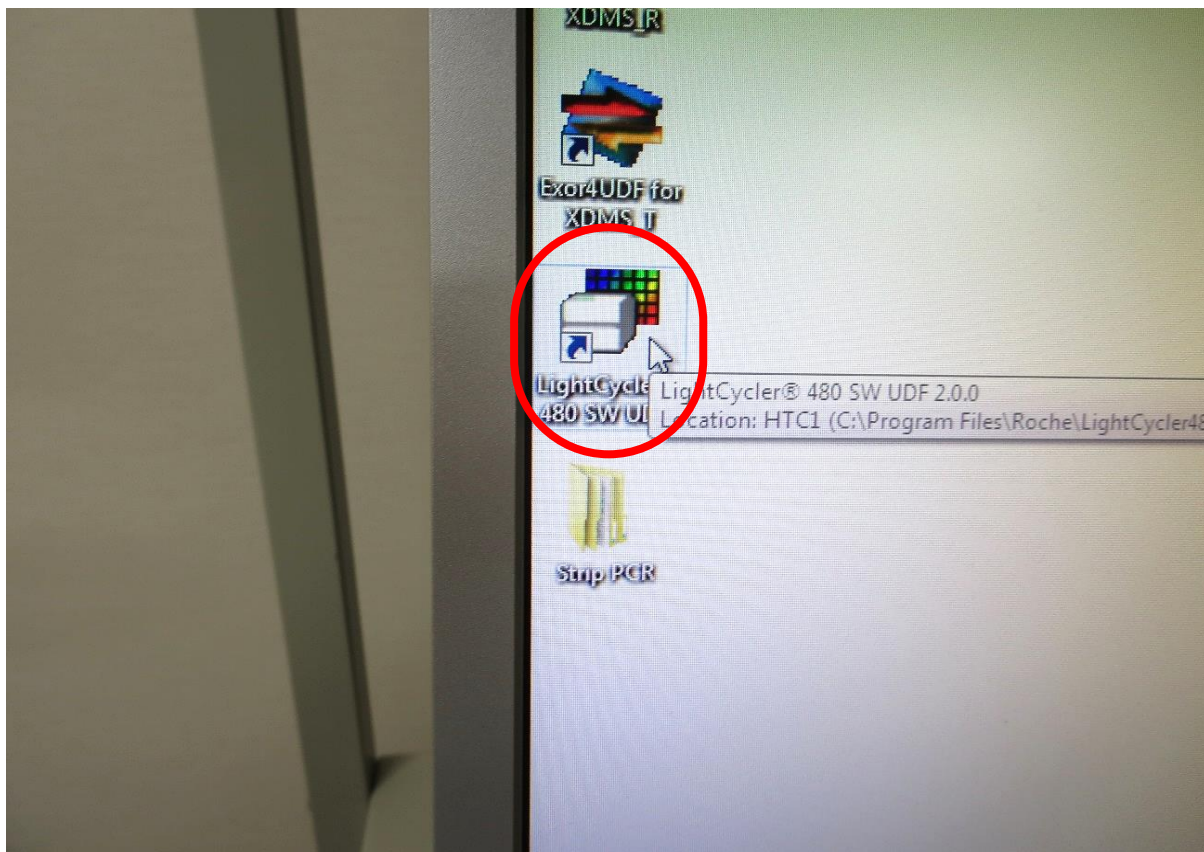
6. (ここから LightCycler480・コバス共通)通知エリアを参照し、「Exor4」が1つ起動していることを確認。



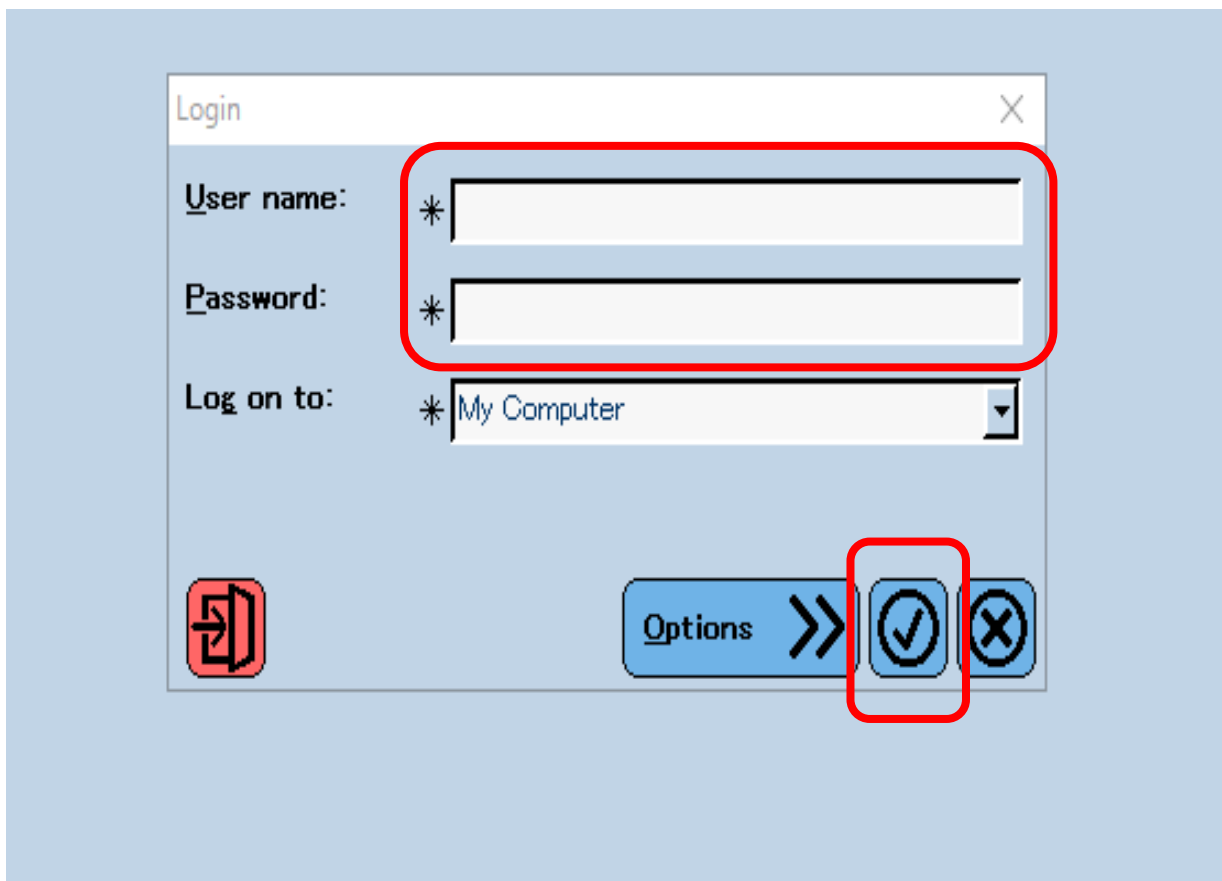
(注) アイコン表示が無い場合は、デスクトップ上のアイコンから起動する。



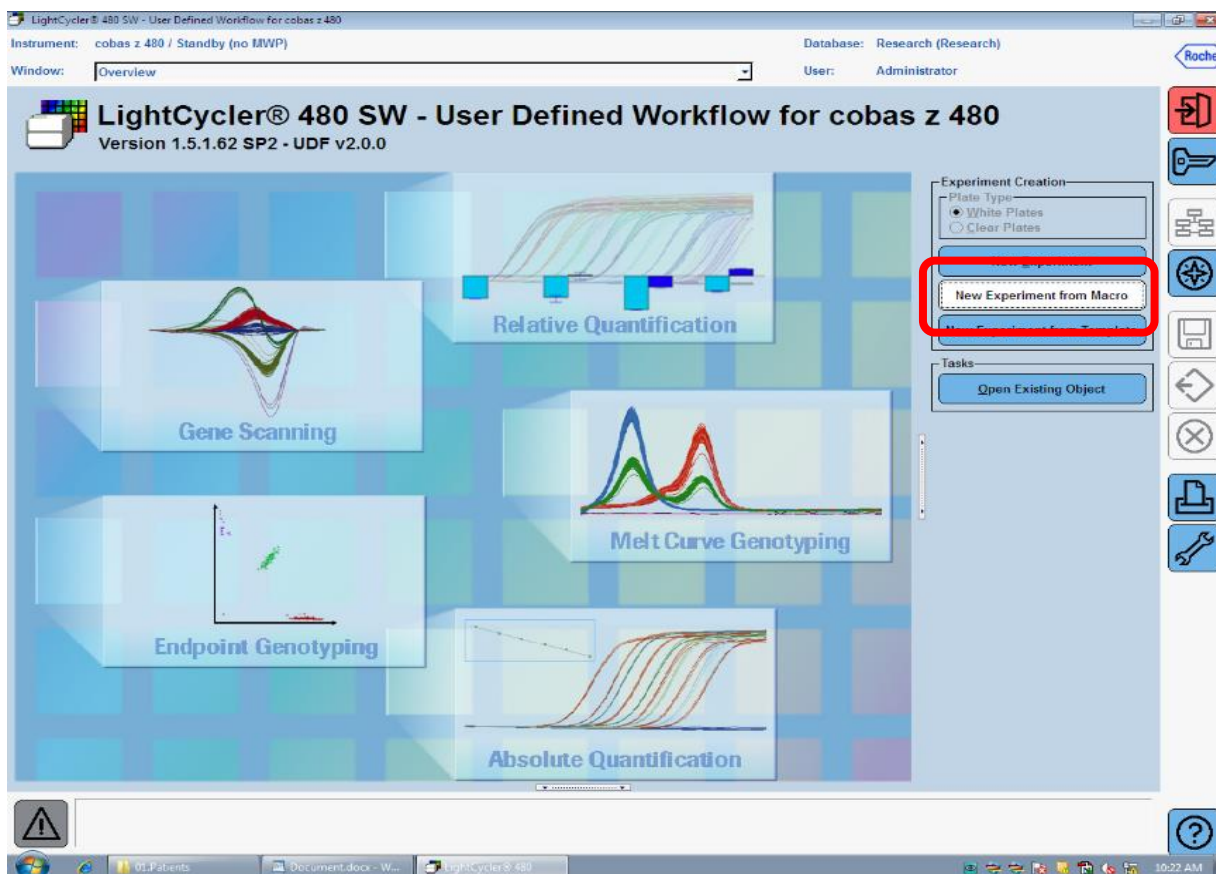
7. デスクトップ上のアイコンから LightCycler480 のソフトを起動。



ユーザー名(User name)とパスワード(Password)を入力し、✓ ボタンを押す。



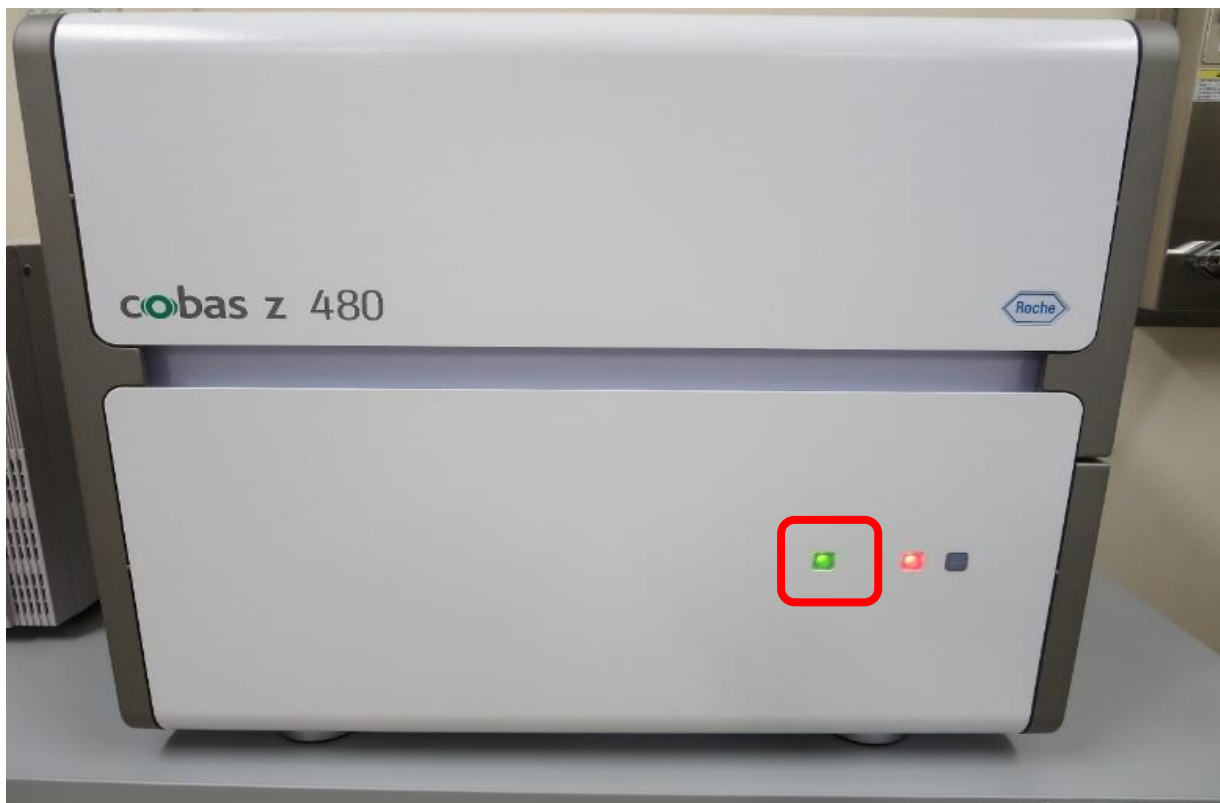
8. 「New Experiment from Macro」をクリック。



9. リストの中から「Macro_FAMROX uveitis」を選択し、✓ ボタンを押す。

Macros		
Name	Location	
Macro Cy5	/Administrator/Macros	6
Macro Cy5 AMP	/Administrator/Macros	6
Macro Cy5 AMP 8strip	/Administrator/Macros	1
Macro Cy5 kanzou	/Administrator/Macros	6
Macro FAM qPCR	/Administrator/Macros	1
Macro FAMROX cornea	/Administrator/Macros	1
Macro FAMROX uveitis	/Administrator/Macros	1
Macro FAMROX uveitis2	/Administrator/Macros	1
Macro ROX	/Administrator/Macros	6
Macro ROX ketsueki	/Administrator/Macros	6
Macro ROX noCC	/Administrator/Macros	6

10. 装置のランプ(左側)が緑色になっていることを確認し、トレイ開閉ボタンを押す。



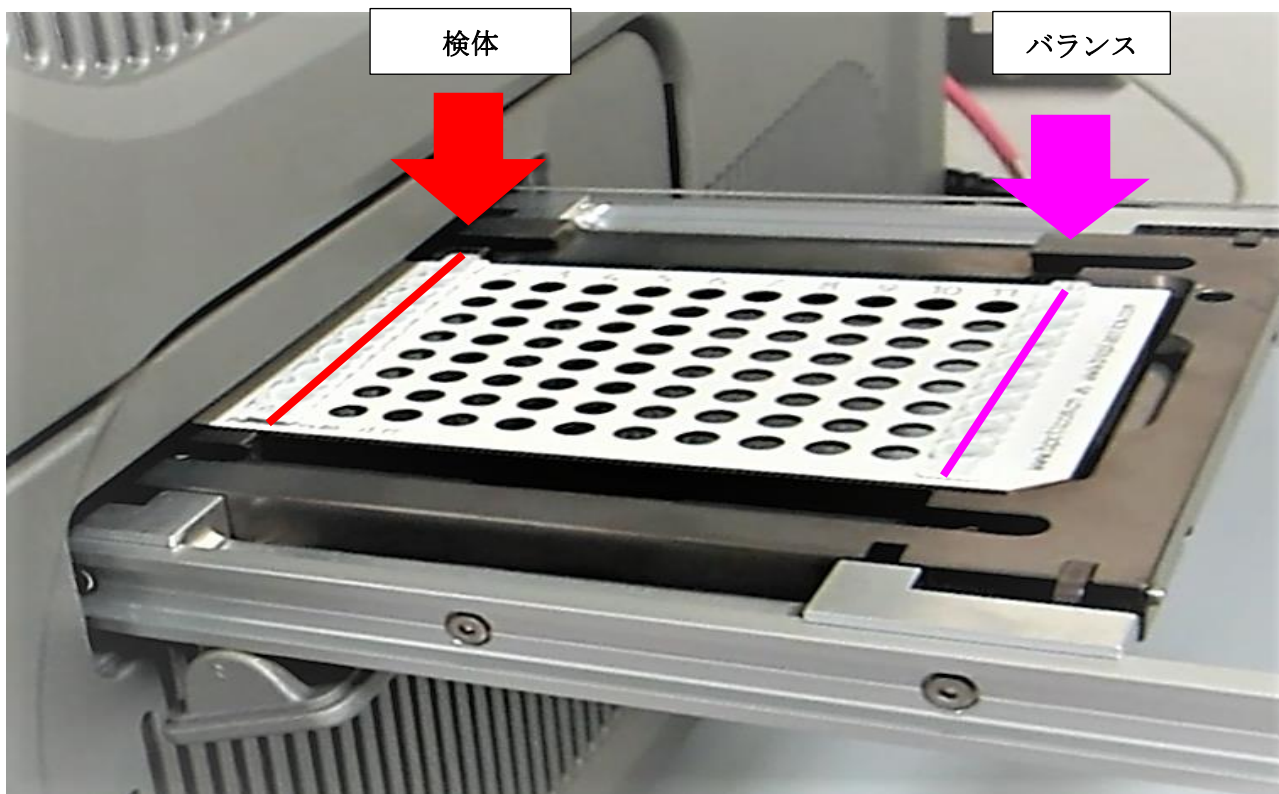
ボタンを押すと、トレイが出る。



11. (LightCycler480 の場合)

アダプターに 8 連チューブストリップをセットして、トレイに乗せる。

(アダプターは日本ジェネティクスから購入可能。2018 年 12 月現在の情報)



(注 1) 写真は設置例。チューブストリップはバランスよく対称となるように配置する。1 個の場合は列 1 に設置し、バランスを取るために空チューブを列 12 に設置。

(注 2) チューブが反っている場合は、手で真っ直ぐになるように修正してから設置する。アダプターとトレイ上でチューブを押さえない。(トレイなどが破損する恐れがある)

(コバスの場合) Strip チューブ内の液体を全て指定のプレートに移しシールをして、トレイに乗せる。アダプターは不要。

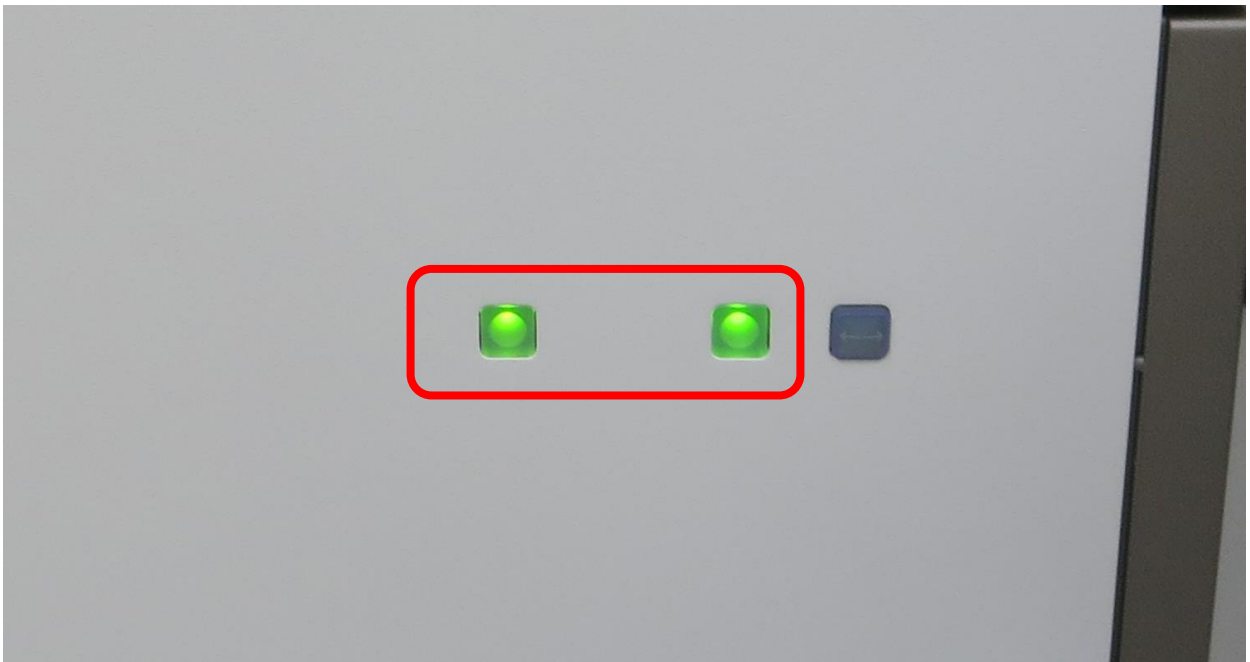
コバスは strip チューブには正式には対応していません。コバスと同型の LightCycler480 は日本ジェネティクスから公式に発売されるアダプターを用いることで strip チューブに対応します。コバスを同様に使用する場合は自己責任となり、保証対象から外れますのでご注意ください。コバスの場合は、PCR 直前にチューブから指定バーコード付きプレートへの移し替えを推奨します。

12. トレイ開閉ボタンを押し、トレイを収納。



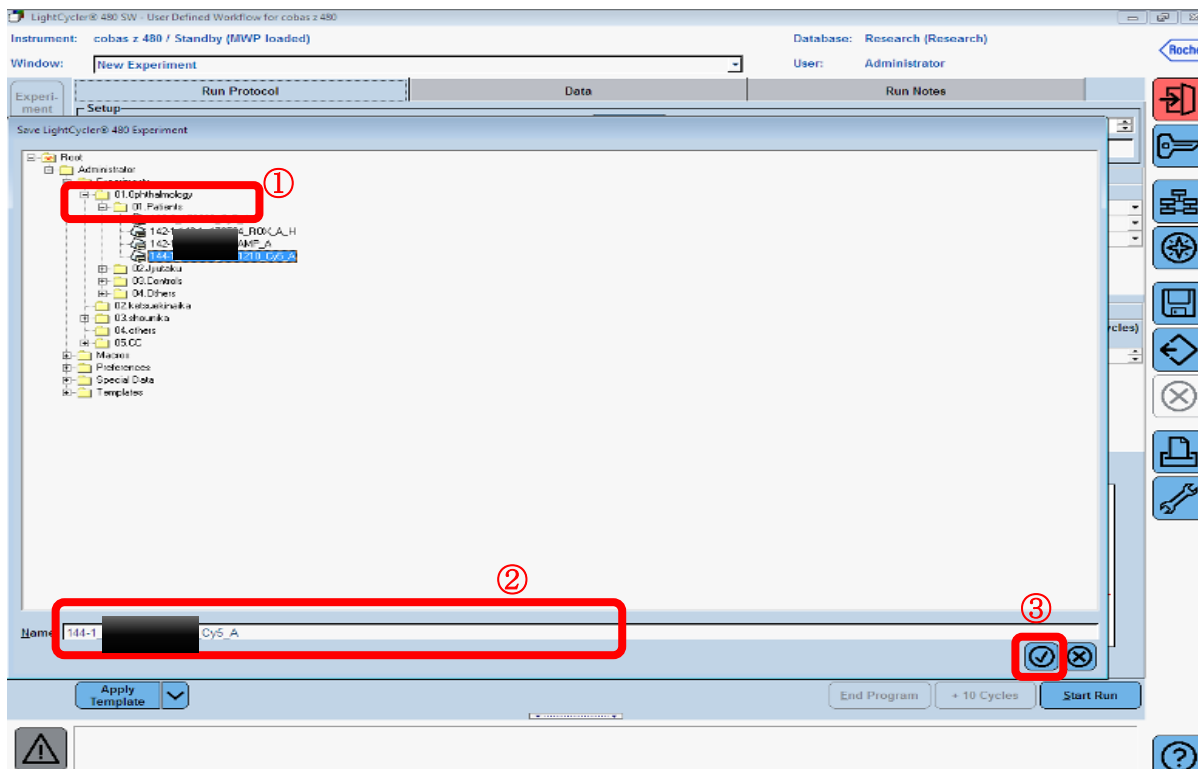
(注) トレイを手で収納しない。必ず開閉ボタンを使用する。

13. ランプが両方とも緑色に点灯していることを確認。

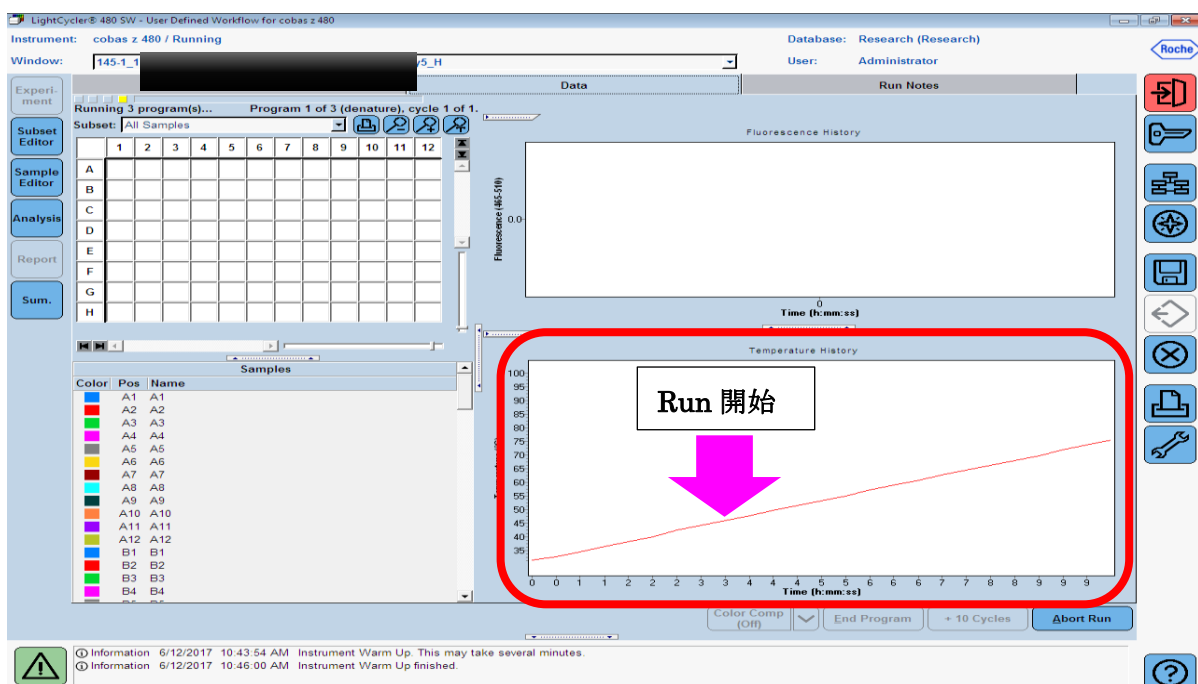


14. 測定データを保存するためのファイル名を付ける。

- ① 保存するフォルダを選択。
- ② ファイル名を入力。検査日、患者 ID、キットロット番号、検体を入れた列などを含めると便利。
180302_0552266_lot121255_A など。このファイル名がカルテ用 PDF に出力される。
- ③ ✓ ボタンを押す。



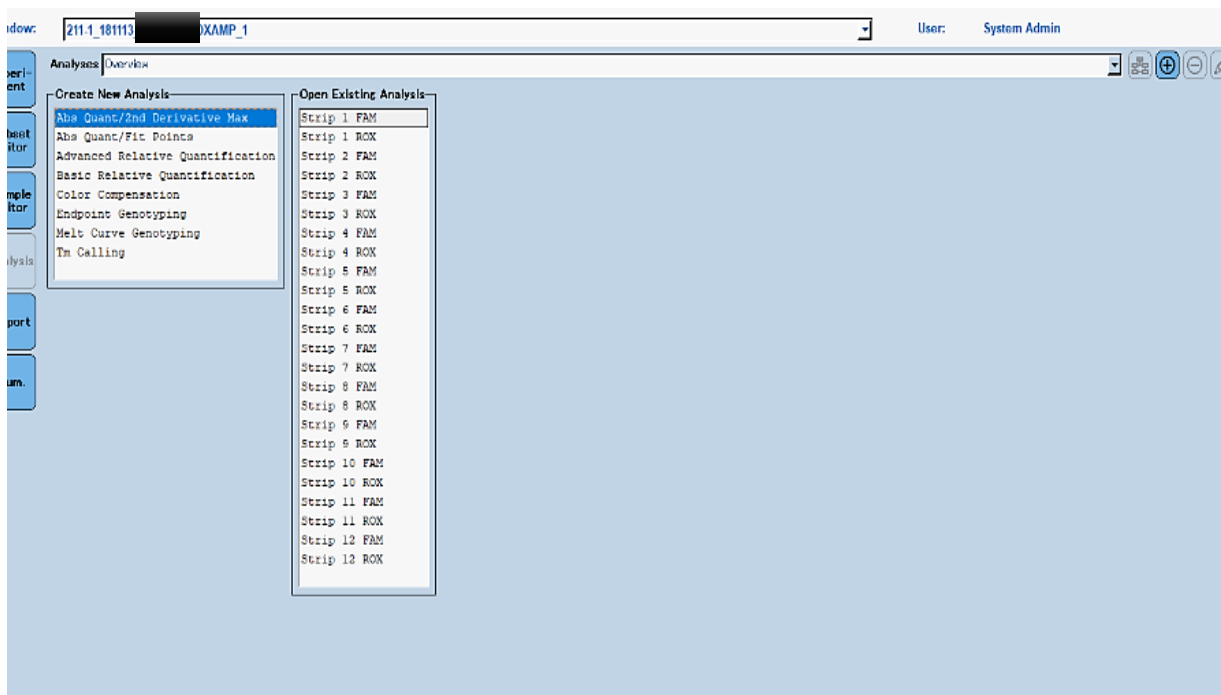
15. ここから Run 開始の蛍光が立ち上がるのを確認してから、その場を離れること。



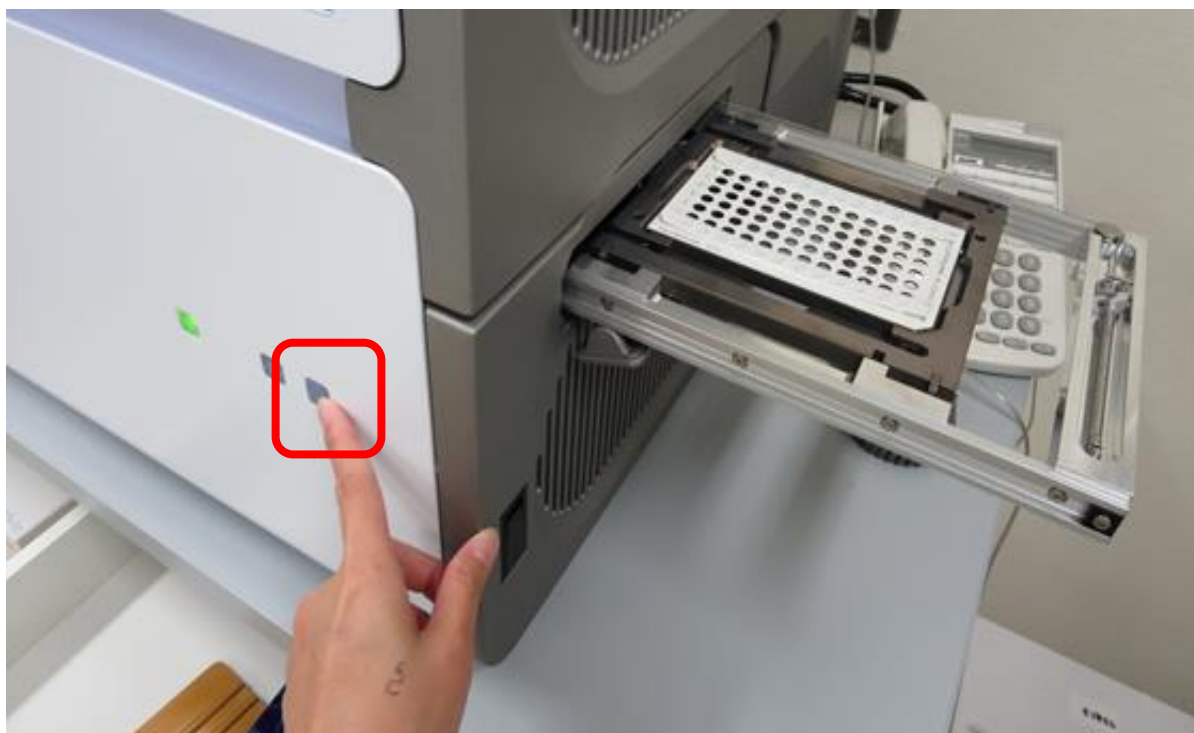
(注) 測定(Run)に要する時間は 50 分程度。

解析 (Analysis)

1. 下記の画面が表示され、測定が終了していることを確認。

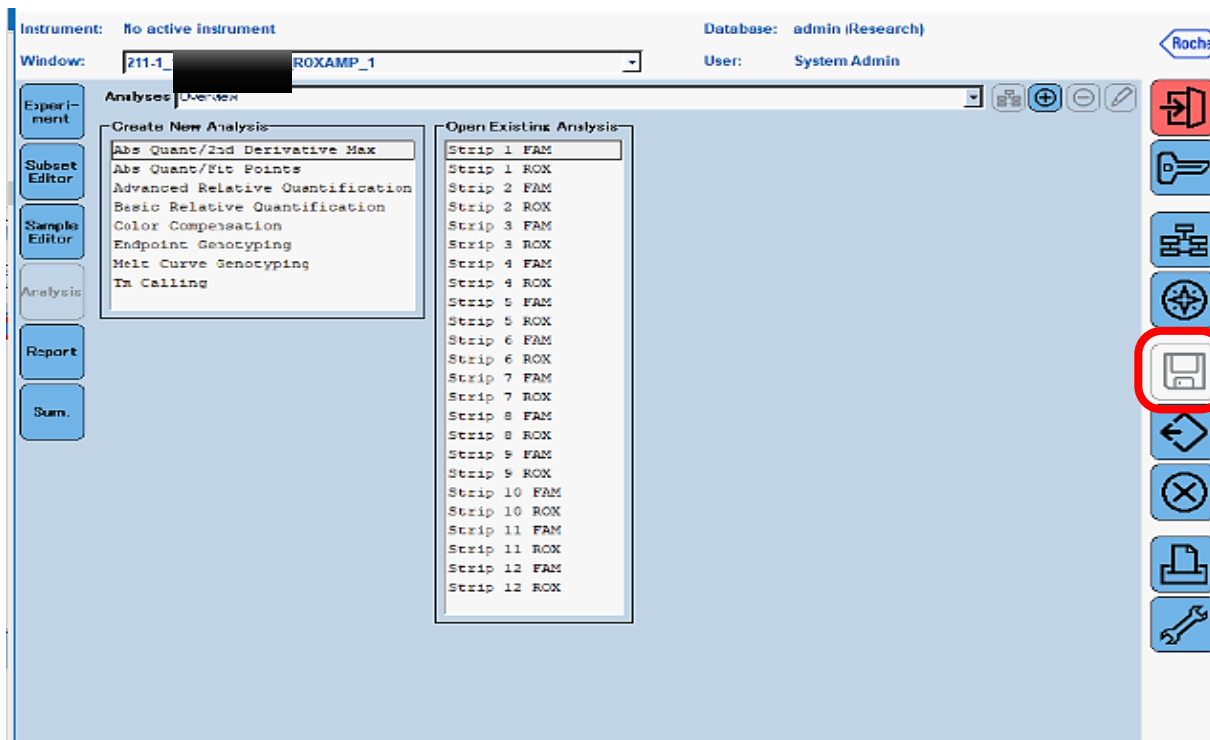


2. 開閉ボタンを押し、装置からアダプターと8連チューブストリップを取り出し、再びボタンを押し、閉める。閉まったことを確認して、装置本体後ろにある電源スイッチを OFF。



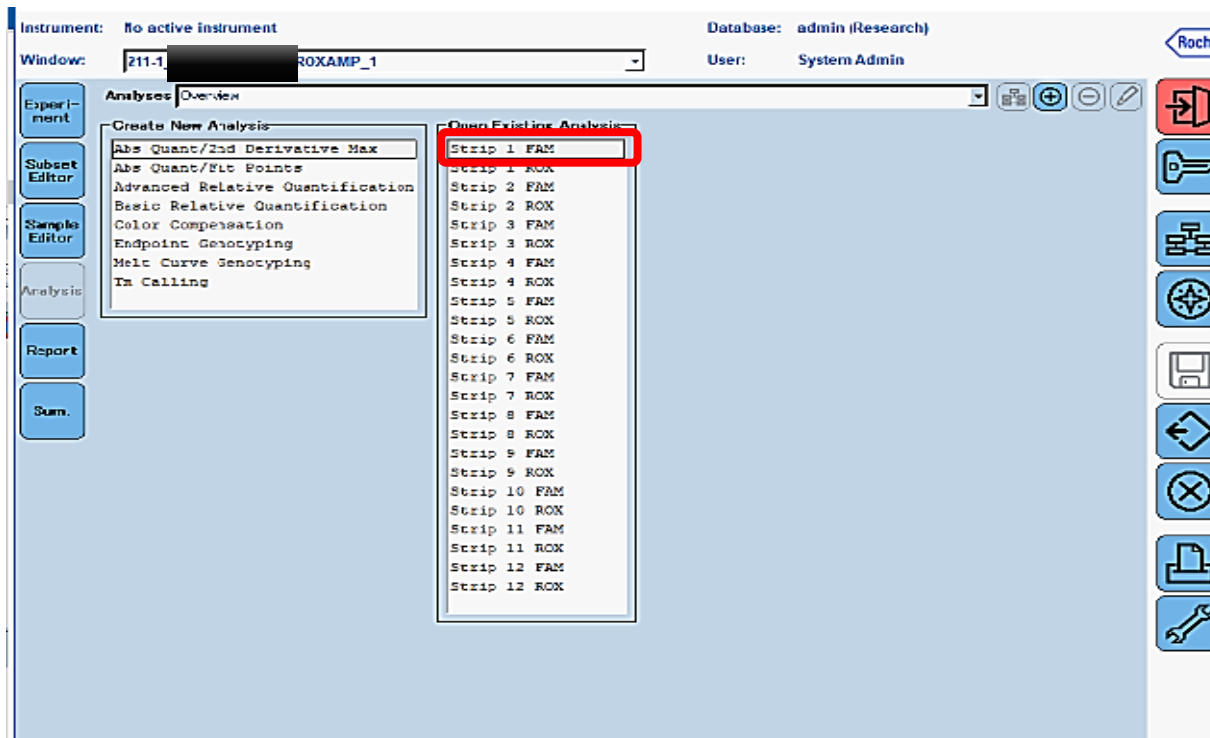
(注) 測定後のチューブはチャック付き袋に入れるなどし、内容物(PCR 増幅産物)が飛散しないように廃棄。チューブは開けない。オートクレーブは行わない。

3. データを保存。

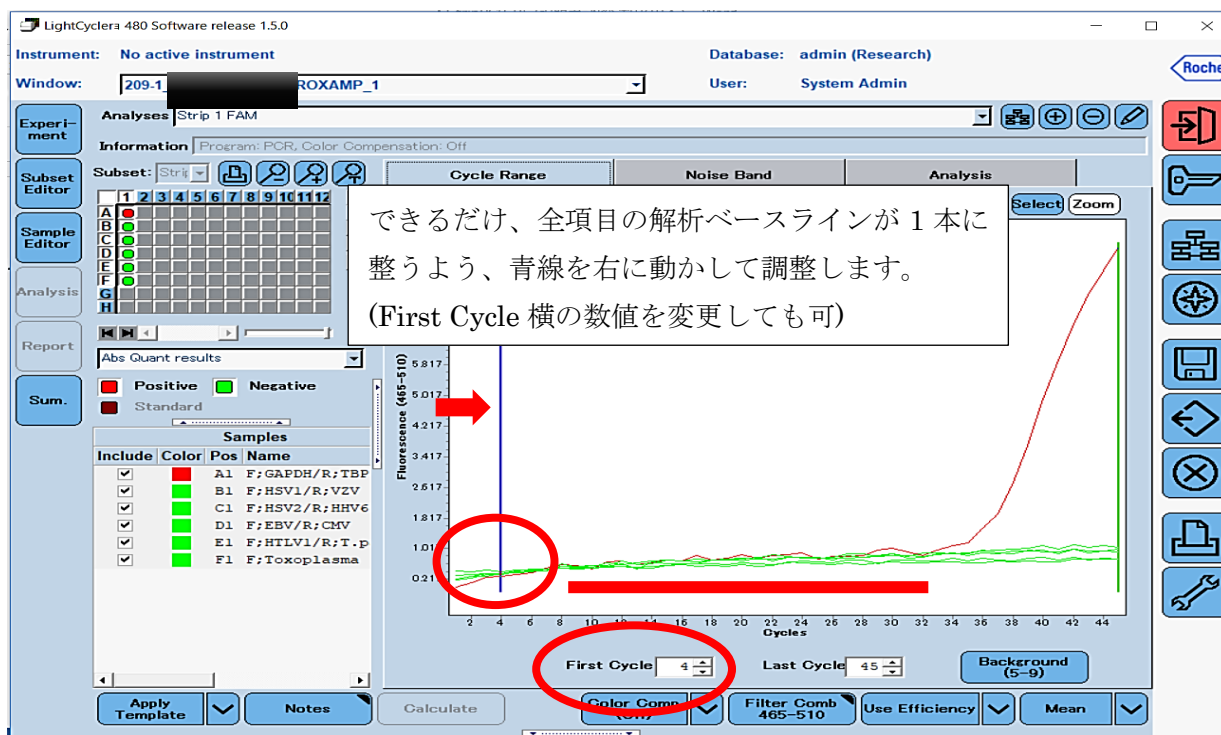


(注) 保存が終了すると、アイコンがグレーアウト表示になる。

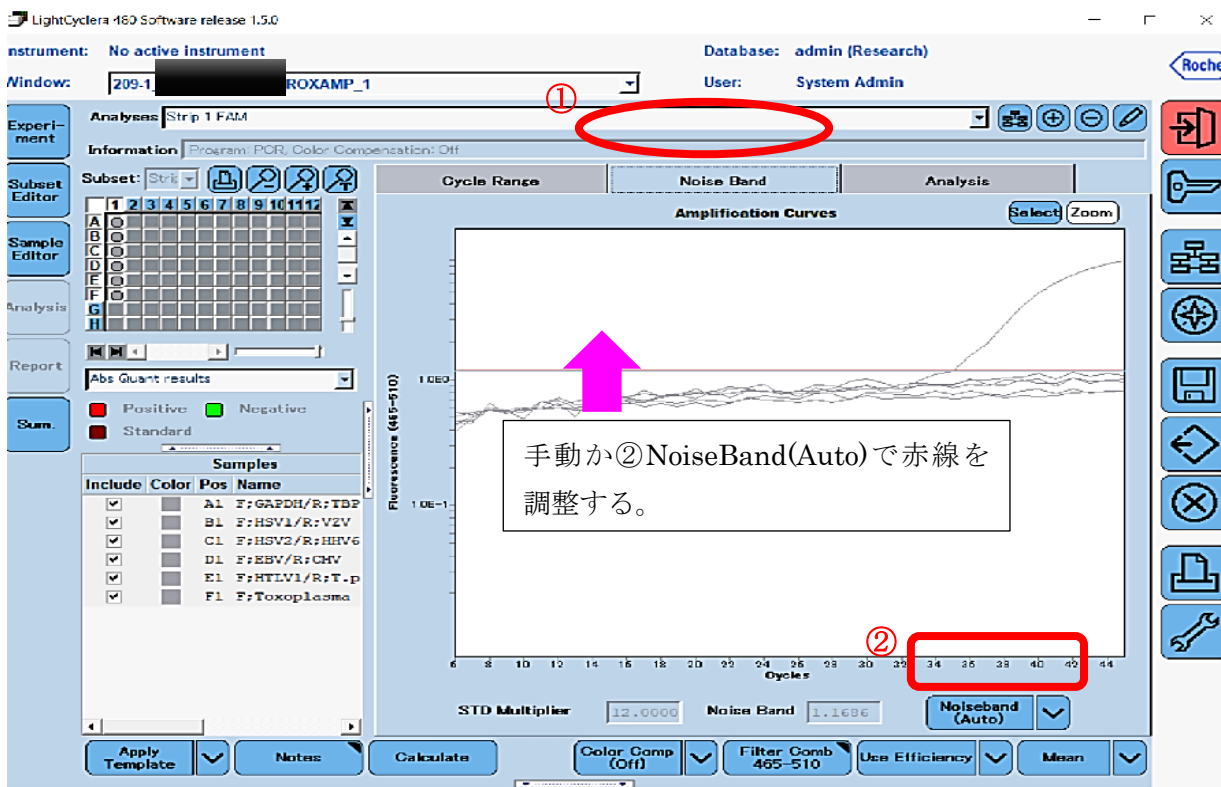
4. 解析を、FAM、ROX の順に行う。測定チューブを入れた列の FAM を選択。



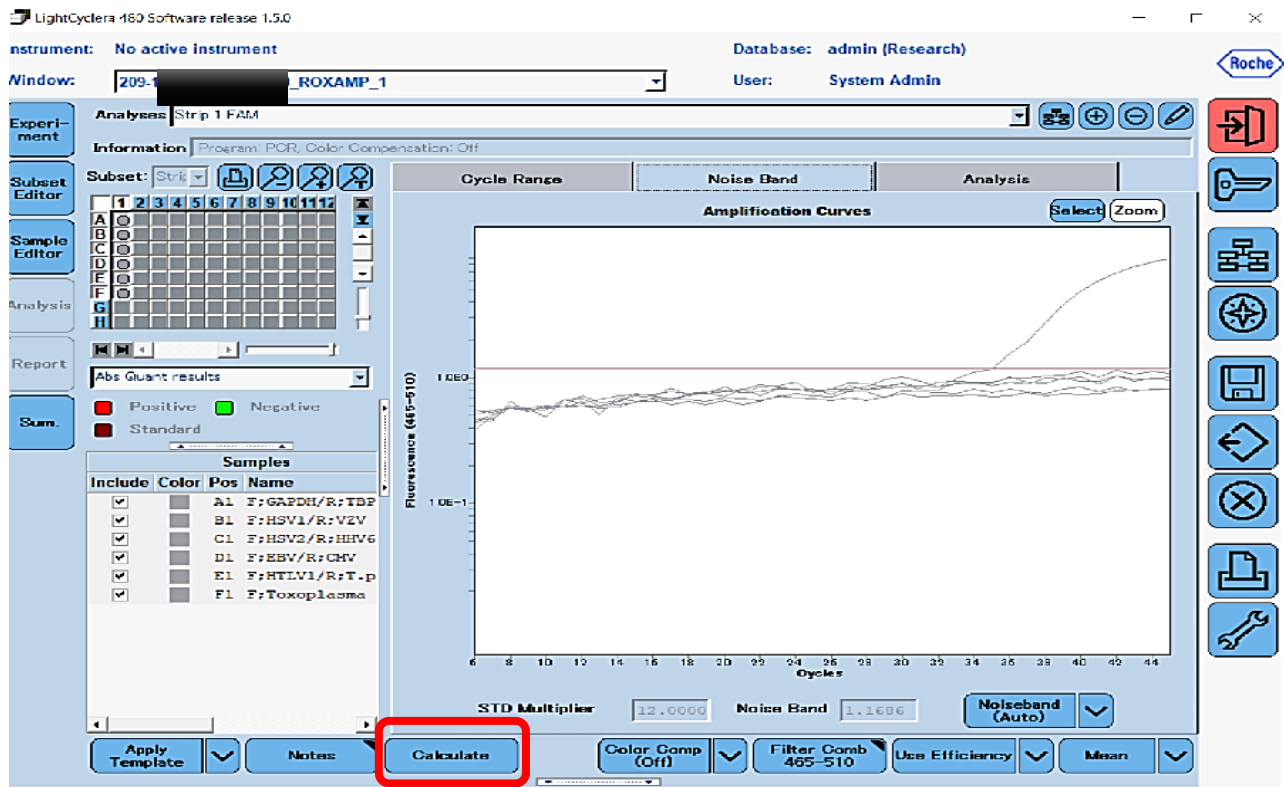
5. 青線を動かして解析を開始するサイクル数(First Cycle)を7~14 サイクルの間に変更して、ベースラインを調整。(最初の数サイクルは蛍光が安定しないので除外するため。)



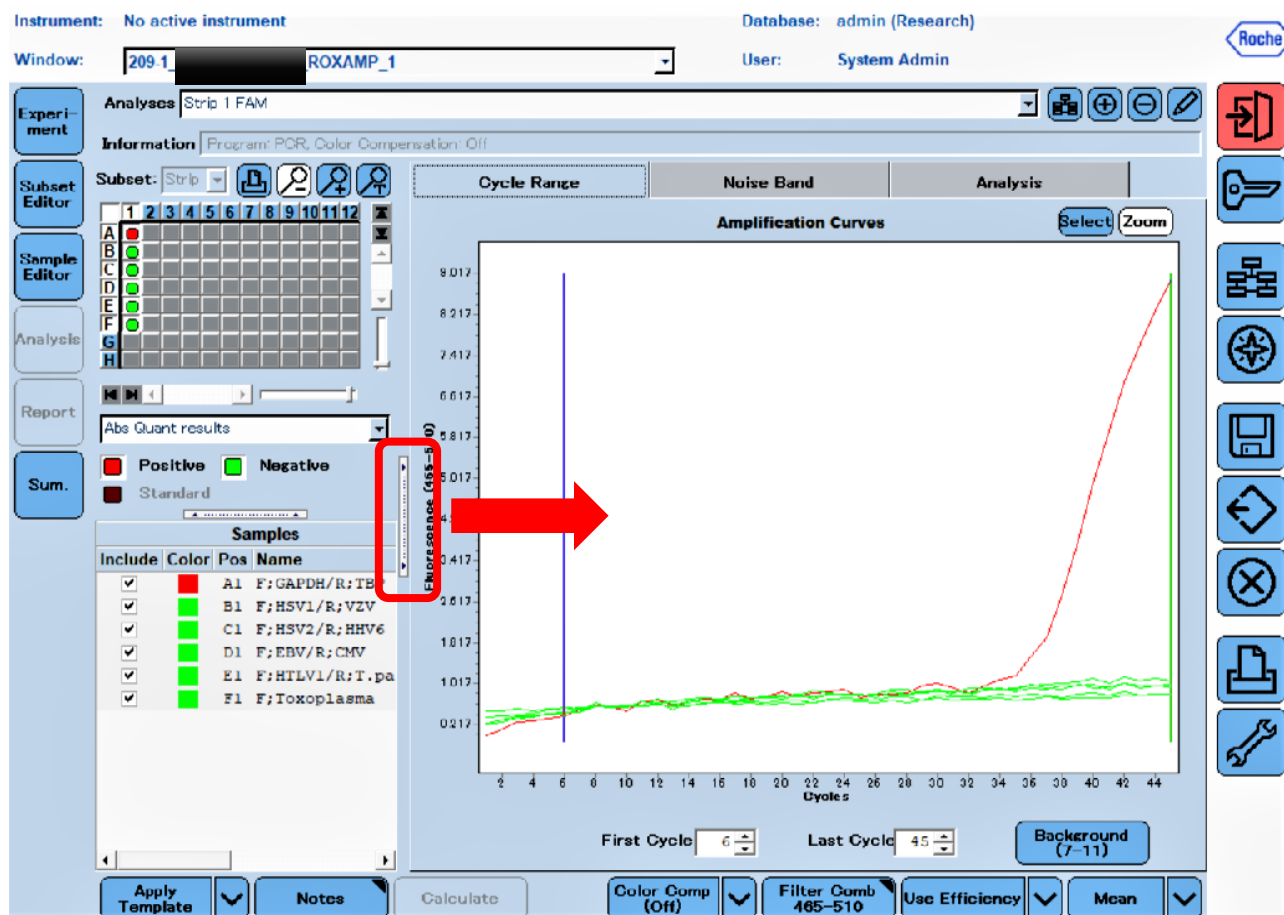
6. ノイズが多い場合などカットオフがうまく設定できていない場合は、①Noise Bandを開き赤線を動かして調整。(問題がなければ Auto 設定のままで可。)



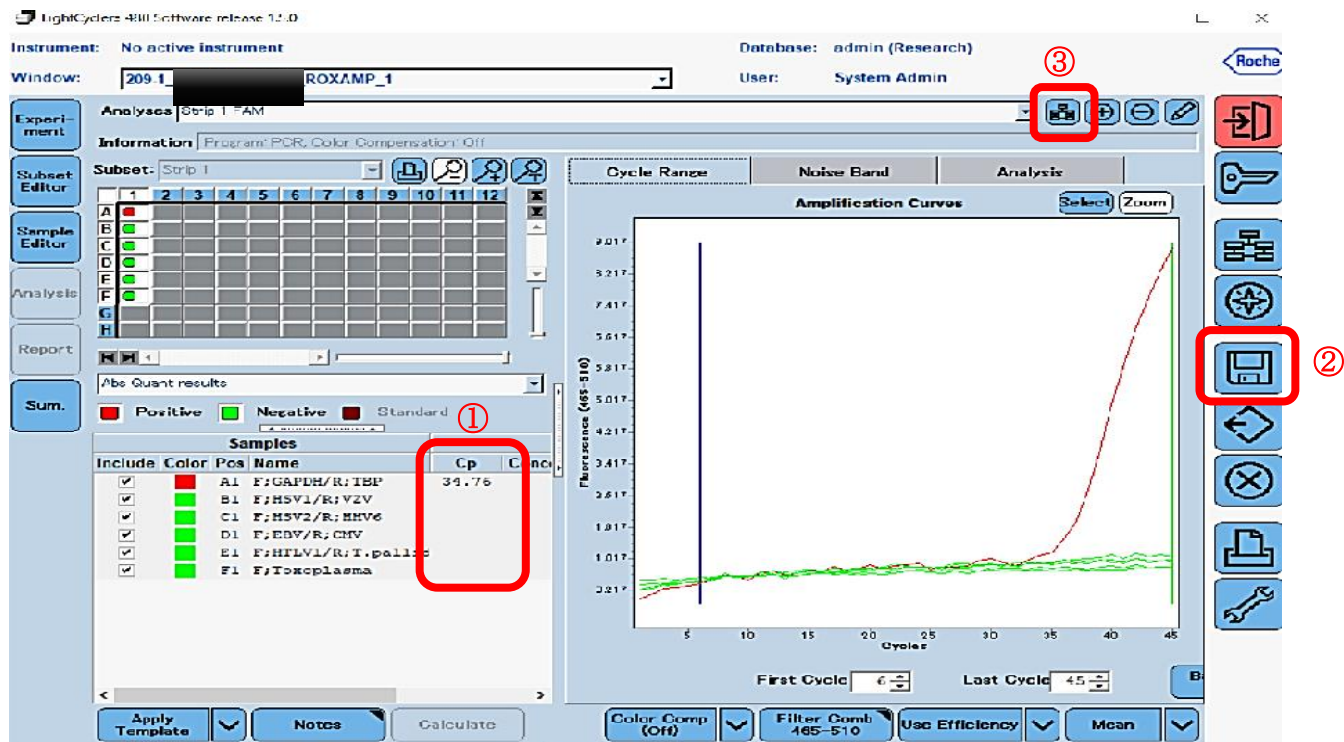
7. Calculate ボタンを押す。



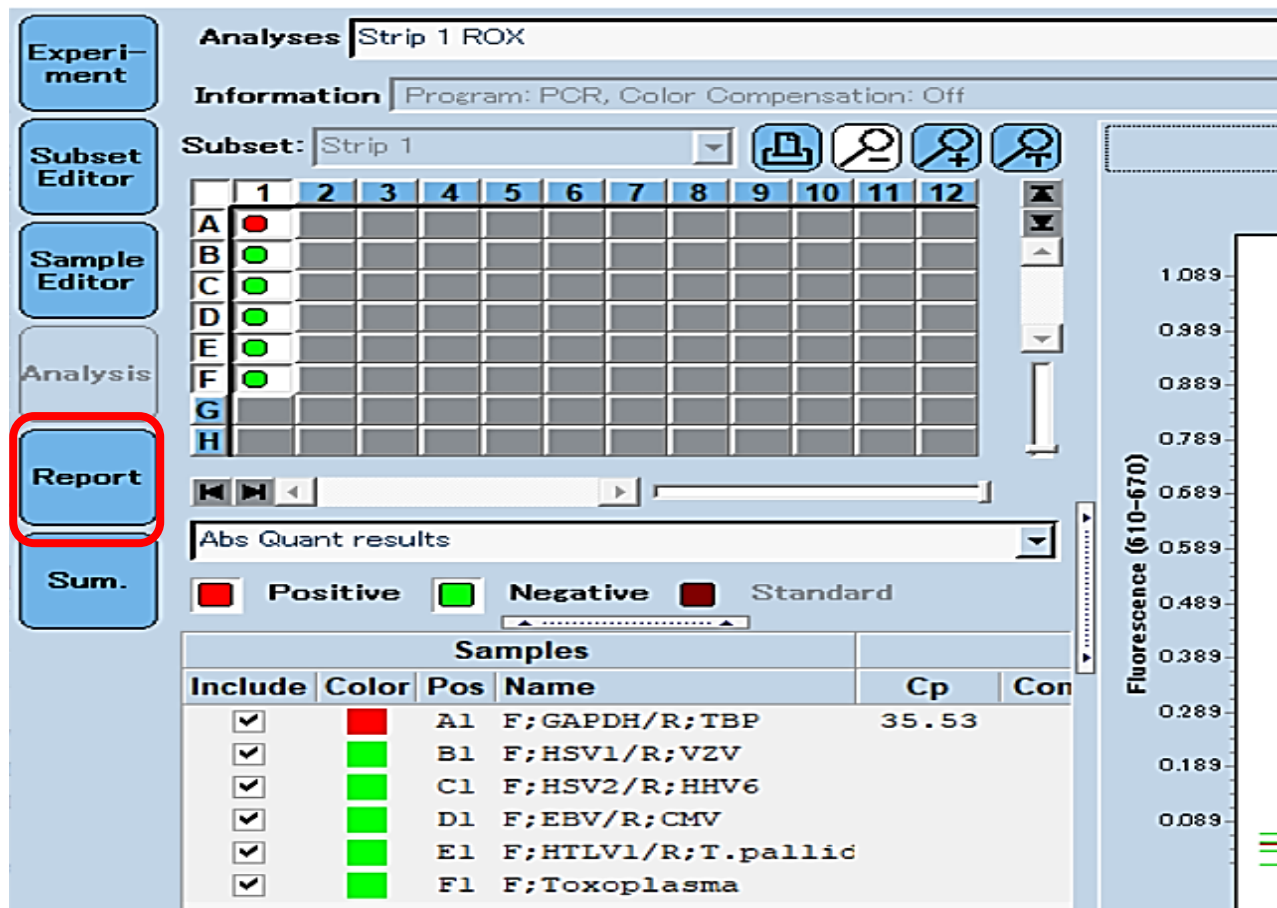
8. 仕切りを動かす。



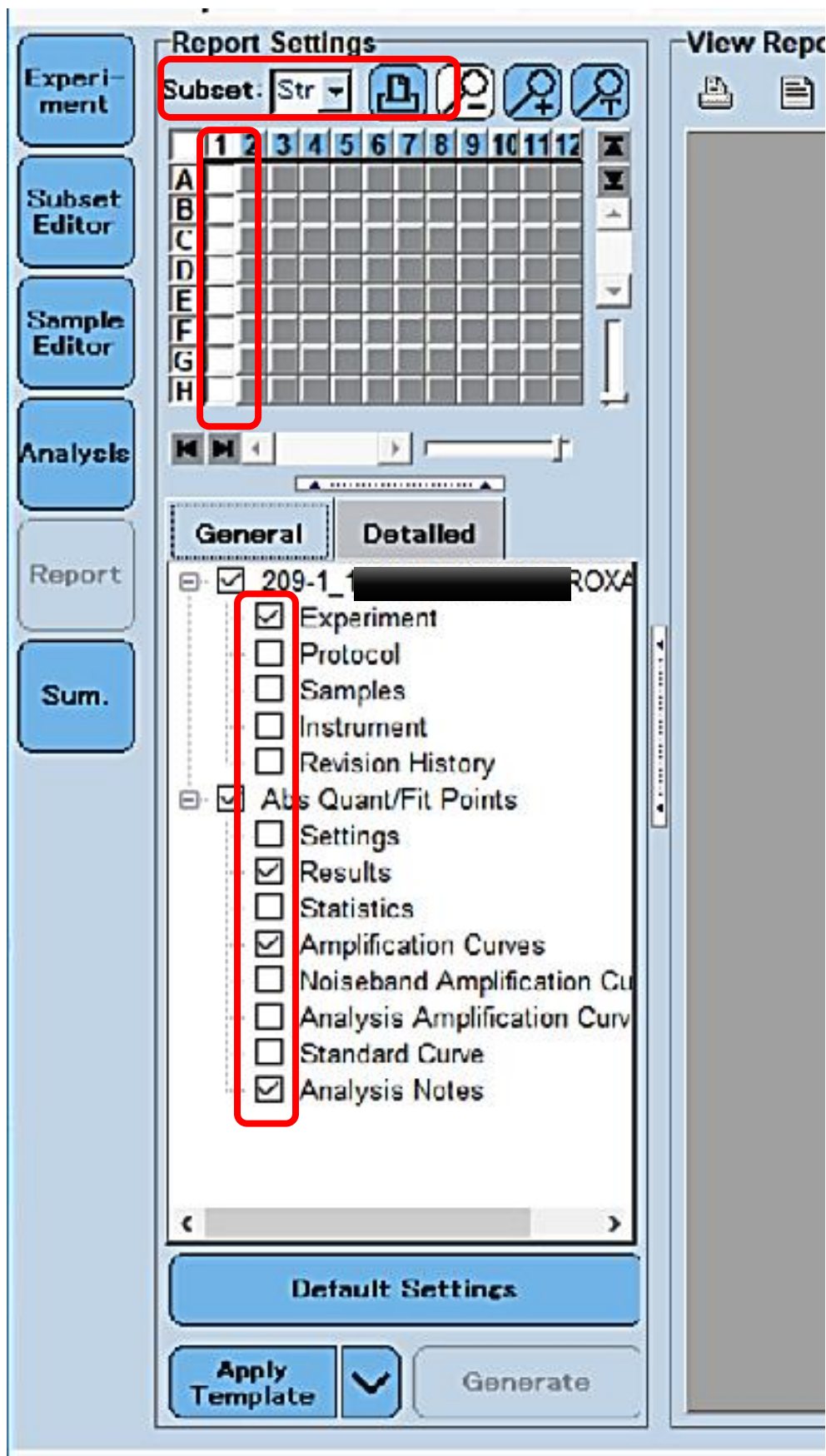
9. ① Cq (=Cp, Ct)値を確認。
- ② 保存。
- ③ を押し、ROX を選択、FAM と同じ手順で解析する。



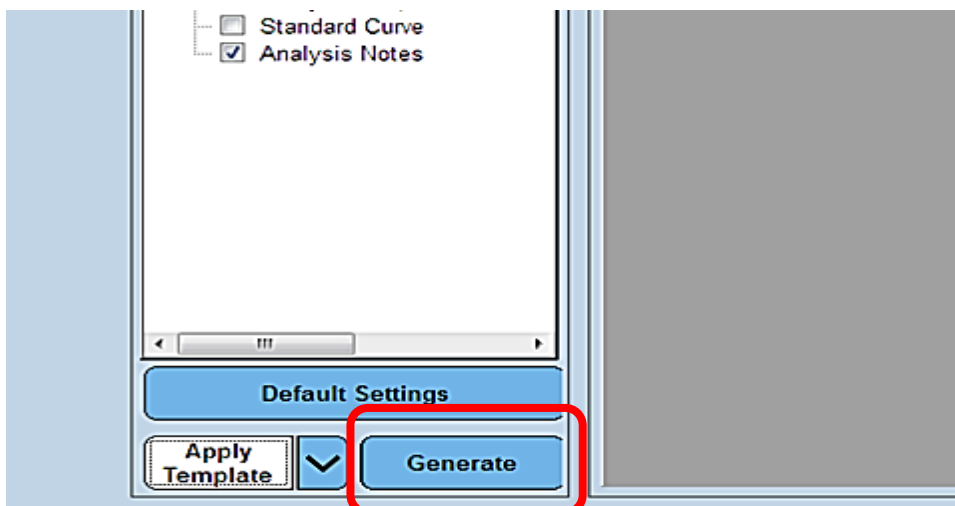
10. 解析レポートを PDF ファイルとして出力するため、Report を押す。(カルテに取り込み可)



11. PDF 出力したい列を選択し、出力したい項目(図の項目がおすすめ)を選択します。



12. Generate ボタンを押します。



13. PDF ファイルが表示される。

- ① run/analysis データを保存。
- ② を押すと、印刷。
- ③ 任意の場所に PDF ファイルとして保存できる。
- ④ run/analysis データのコピー(ixo ファイル)をエクスポートできる。

Inc	Pos	Name	Type	CP	Concentration	Standard	Status
1	A1	F:\SAPPHIRE\TRIP	Unknown	16.80			
2	B1	F:\BVT\RAV227	Unknown				
3	C1	F:\BVT\RHHS	Unknown				
4	D1	F:\BVT\RCMV	Unknown				
5	E1	F:\113\156-1.gallidum	Unknown				
6	F1	F:\Touqizama	Unknown				

※本説明書に公開している検査日、患者番号などは架空のものです。